

第7回ふれあい祭が開かれましたー2

日本語教室の皆さんと「世界の国から今日は」

津田敬吾（日本語教室部会長）

日本語教室部会は今回の「ふれあい祭」に3種類の活動で参加しました。

まず、世界の各国から来日して日本語を勉強している学習者が歌や踊り、太極拳などを披露するステージ活動。次に、来場されたお客様が各国のテーブルを回ってその国の出身者と言葉を交わし、サインや国旗のシールを集める「ふれあいコーナー」。そして日頃の日本語教室の学習風景を写したDVDの放映とパネル展示です。

今回の行事には中国、フィリピン、インド、ペルー、コロンビア、メキシコ、タイの学習者が参加し、上記ステージ活動に参加し、万国旗で飾られた会場に設けたふれあいコーナーは、国別に地図や写真、衣装などを貼ったパネルと、民芸品やコインなどを並べたテーブルで作られ、そこに学習者が座って来場者を迎えました。また会場設営や展示・飾りつけ、進行管理等に従事したボランティア等を合わせると80名近いメンバーが参加しました。

ステージ活動は午後1時から1時30分までの時間制でしたが、常時設けられた「ふれあいコーナー」は来客が途絶えることがありませんでした。ちなみに国旗シールを貼付するための台紙は約170枚配付しました。

私たちの活動の最大の目的は来場者の皆さんに、私たちの身近に色々な国から大勢の人たちがやって来て、日本人たちと一緒に生活をしている、そして日本の生活に溶け込もうと、日本語をはじめとして日本での生活に必要な習慣などを一生懸命に勉強している、そんな姿を知っていただくことでした。これらの人は、言葉や生活習慣が異なる異国へやって来て生活しているわけですから苦労が多いことだろうと思いますが、異口同音に日本

が大好きと言っています。そして楽しく勉強をしています。

行事が終わった後に、参加した外国人学習者にどんな点が良かったか尋ねてみると、「日本人の子どもと話ができ楽しかった」という返事と並んで「自分の出身国のことを話すことができ嬉しかった」といった感想がことのほか多く返って来ました。

日本人はともすると国際交流と言うと欧米に目を向けがちです。他方、私たちの身近に暮らしている外国人の多くはアジアや中南米から来た人が多く、その人たちはシャイで、あまり母国の自慢話を口にしないのですが、これらの人のほとんどは、日本と同じように母国を愛し、誇りに思っています。私たちもそれらの国に関心を持って、もっと理解を深め、友好を深めて行かねばならないと思います。ふれあい祭が、文字通り習志野市に住む多くの国の人たちのふれあいの場となり、国際交流のきっかけとなったことをうれしく思います。そしてこれからもそうあることを願っています。



各国のコーナーでは学習者が子供たちと親しくやりとり



インドのモナリ トンバリさん(左)とプリアンカ パタックさん(右)